



# 市長と

# 車座トーク

## 第42回 箕島学区（概要）



開催日時 2017年（平成29年）10月31日（火）

19:30～20:30

開催場所 箕島公民館

参加者数 12人

次第 市長のあいさつ

意見交換

地域からまとめのあいさつ



### ＜車座トークでの主なご意見＞

- ・災害時に近隣学区の方が避難する場合は、避難場所であるテクノ工業団地は遠いため、緊急避難場所としてより近い「茶山」を利用できるよう、進入路や広場の整備を提案したい。
- ・災害用備蓄倉庫の多くが低い場所にあるように感じる。標高60m以上の高台にあるテクノ工業団地と茶山とへ備蓄倉庫を作ってはどうか。備蓄倉庫ができるまでは、テクノ工業団地内企業の倉庫の一部を利用し、備蓄品を保管するという考えはないか。
- ・釜屋樋門からテクノ工業団地への進入路の入口部分が大変狭く、いざ人が押し寄せた時、入口でパンクするのは必然。1日も早く改修をしてもらいたい。また、平時でも不規則で危険な交差点でもあるので、都市計画道路が取りやめになった現在、市・県・地元で今一度検討する会を持ってもらいたい。
- ・箕沖工業団地内に「空き地」が点在しており、杭が打てない土地や汚染が心配される土地等もあり、今後の使われ方が心配。現在でも交通量が多い中、今後団地内に会社等が増えれば、従業員・関連会社の車が増えるのではないかと不安。県と協議し、箕沖町全体の今後の利用計画を教えて欲しい。

- ・箕沖工業団地内の道路では車の駐車が禁止されているようで、真夜中に到着した搬入車は手前で待機せざるを得ない状況にある。夏・冬などはエンジンをかけたままであり、車が動いた後には空き缶と弁当ガラ等が放置してある。団地内に搬入・搬出車の待機駐車を造って欲しい。
- ・箕島町への降下ばいじん量は他の町と比べても突出して多い。天候や風向きによっては洗濯物が干せず、雨樋がつまり、屋根・車が汚れるなど日常生活で困っている。他都市では行政が関わり色々改善をしている。JFEが市に与える経済的効果や雇用創出効果もわかるが環境問題とは別。地域も最大限の協力はするので、行政も関わって、企業と共に改善策を検討・研究してもらいたい。
- ・国内で「ヒアリ」が確認された箇所は、すべて外国とのコンテナ貨物の往来がある港湾周辺である。福山でも、国や県が中心となって箕沖町の福山港国際ターミナルを調査した結果確認されなかった。しかし、コンテナは1か所に留まるものではない。港に陸揚げされた後、空になったコンテナが学区内の集積場所にある。市内各所にも何か所かあるのではないかと。国や県は港湾周辺しか調査しないのではないかと思うので、コンテナ集積所を市で調査してもらいたい。
- ・10数年前から、防犯対策・環境対策・交通事故防止の観点で、幹線道路の草刈り・ごみ拾い等の道路清掃を地域ボランティアで取り組んでいる。草刈りのため、担当課で購入した除草剤を年2回取りにいつている。しかし、受け取りにいつても、担当課が計画的に除草剤を購入し保管していないのか、もらえないときがある。地域で出来ることは地域で行うという思いで実施しているので、必要な物品についてはスムーズに提供していただければありがたい。
- ・学区内には急傾斜地が多く、近年の集中豪雨時は不安である。また、最近イノシシが繁殖している。イノシシの駆除について、国の補助事業は、学区の「箕島釣ヶ端新開」が荒らされなければ対象にならないと言われている。単市補助では3分の2という補助率や金額の上限があり、学区としては国か市どちらかの補助金で山全体を柵で囲う作業に取り組むたいが、急傾斜地の作業はとても危険。そこで、モデル的な人命保護事業として、市で落石防止柵を急傾斜地に設置してもらうことによって、山崩れ対策とイノシシ対策が同時に解決できるのではないかと。
- ・小学校では保護者全員がPTAと子ども会の役員を担っている。これらの活動は、地域への繋がりや地域活動参加への第一歩となり、学区の各種団体との繋がりを若いうちから築くことができる。しかし、役員をしなければならぬからという理由で近隣の小学校に入学させる保護者や、子どもが高学年になると親が大変だからという理由で他校に転校させる保護者もいる。校区制度があるが、希望すれば簡単に校区外の小学校に行けるような制度が本当にいいのかと思う。
- ・最近の教育行政は、小規模校を統廃合する方向を目指しているようだが、今後どのようなようになるか心配だ。これからの少子高齢化時代に向けて、地域の繋がりや絆といった「まちづくり」の活動拠点でもある小学校の存続は大変重要だと思うし、こういった小規模校の良さも理解いただきたい。
- ・小学校体育館はトタン屋根で防音・保温がない。雨の日は雨が屋根を叩く音で授業や音楽発表会の練習をしている時も聞こえにくい。保温がないため体育の授業をするときも力が発揮しにくい。また、グラウンドの遊具は鉄が腐食しており、登り棒やサッカーゴールが使えない。体育館天井の消音工事や遊具の整備をお願いしたい。
- ・「ふるさとクリーン作戦」という地域のごみを拾う活動を行っている。この活動は子どもだけでなく地域の皆で実施することで、もっと箕島をきれいにしていけると思う。また、ごみのポイ捨てを減らすために、分別できる回収ボックスを増やすといいと思う。

## <市長のまとめ>

- ・近隣学区から大勢の方が避難場所を求めて「茶山」に逃げて来られることを想定すると、一定の規模を確保できるか少し心配がある。茶山には公共用地がなく、ほとんど私有地であるので、その所有者の理解が得られるかどうかという問題もある。今「早めに」「余裕を持って」避難していただくよう、早めの情報提供を行うようにしている。避難支援が必要な方にも余裕を持って避難していただけるよう早めに情報を出すので、広いスペースのあるテクノ工業団地をまずはご利用いただきたい。茶山についても引き続き避難場所の可能性を考えていきたい。
- ・現在、備蓄倉庫は市内21か所ある。指摘を受けて考え直したいと思う。テクノ工業団地の中にも避難者のための備蓄物資をしっかりと確保しておく必要があるのではないかということについては、今後の検討課題とさせていただきたい。市内全域の備蓄倉庫の位置の問題についても考えてみたい。
- ・テクノ工業団地入口の道路が狭いという心配については、その通りだと思うが、私有地にかかるため、所有者の理解が得られないと道路を広げられない。是非土木常設員や自治会役員の皆様で、地元の所有者の理解いただく努力をしていただければ、行政も動きやすい。また、新涯箕島線の未整備区間の計画については、県の「海岸保全事業」であり、防災のための事業ではない。しかし避難経路の一部であるため、早めに事業着手につなげられないか、県には改めて申入れをしてみたいと思う。
- ・箕沖工業団地内の500㎡以上の空き地については、所有企業に意向確認調査を行った。その結果、全ての企業が、いずれは設備投資をしたり、活用したりする目的はあるとのことだった。ただし、500㎡以下の空き地については十分な調査はできていない。「杭の打てない土地」や「汚染の心配される土地」については、具体的な場所を教えていただければ、確認に行く。
- ・住宅地に駐車している車についてだが、工業団地内の土地は全て売却されており、県との関わりはなくなっている。しかし、団地内の企業が集まって「協議会」を作っているので、今回は市から協議会へ話を持っていき、その結果をまた報告する。その後出てきた問題については、自治会と協議会で直接やっていただくのもいいし、市を通していいと思う。
- ・降下ばいじん量が他の地域と比べて突出した量だということを確認した。JFEでも昨年から3年かけて、ばいじんを外に出さない「集塵装置」に取り組んでいると聞いている。来年以降の経過をチェックするとともに、定期的に事業所に立入検査をしながら、指導を続けたい。今の状況では良くない。効果を確認し、今出来ることは少しずつでも取り組んでいきたい。決して軽んずるつもりはない。
- ・幸い「ヒアリ」は福山では発見されていないが、気を抜くわけにはいかない。現在も目による点検を月1回やっている。トラック協会・運送団体等には、もしヒアリの様なものを確認したらすぐ連絡するよう依頼している。地域住民の方も見たらすぐ連絡をして欲しい。ヒアリは一定のところにいるのではなく、動くはず。空きコンテナ集積場所を教えてもらえれば確認に行く。
- ・地域の大人がボランティアで地域を守っているということは、子どもたちの勉強になるし、地域を大切にしている気持ちを持って貰えるのではないと思う。そういう時に、必要な資材が市にストックされていなかったことは、お詫びしたい。要望にスムーズに応えられるようなストックの在り方について、少しでも工夫したい。作業日程を早めに教えていただければ、必要量を確保するという努力もしたい。
- ・イノシシ対策について、有効な方法がなくて頭を抱えている。確かに、「がけ崩れ防止のための事業だと難しいことを言わず、何かやれ」という気持ちはわかるが、それをすると市・県・国でも制度の節度がなくなってしまうという心配がある。国や県にも、危機感を持ってイノシシ対策を考えて欲しい

いという意味で、県に相談を持っていくことにしている。学区内の急傾斜地で警戒区域に指定されている区域があれば「急傾斜事業を急ぐ」という形での取組を考えてみたい。警戒区域に指定されていないのに急傾斜事業としてやることはハードルが高いが、何よりも人命に何かあったのでは遅い。農地以外の出没するような所に対して、どのような防衛策を採れるか、県と相談してみたい。

- ・校区外への転校については、一定のルールに基づいて、転校がやむを得ない状況が認められた場合のみ転校してもらっているということをご理解いただきたい。やむを得ない状況とは、通学路が危ない場合や、保護者の仕事の関係で校区外の学校に行く方が子どもを1人にしなくて済む場合などのこと。
- ・学校の再編については、教育委員会では、学校の児童数等が将来どのように推移するかという推計をもって考えている。当面は、児童数が減り、教育環境として望ましくない所が学校再編の対象となっている。しかし「再編」が全てではないということが基本。「全ては子どもたちのために」という思いで、地元の保護者や子どもの声をききながら、より望ましい教育環境をどうやって維持できるかを考える。よくある議論は「学校がなくなれば、地域が廃れてしまう。」というもの。しかし、教育の問題と地域の活性化の問題は同じ場合もあれば、分けて考えることができる場合もある。子どもたちが隣の学校へ通っていても、元の学区でも一定のコミュニティや子どもたちの活動が維持できるようにすれば、子どもたちの声は引き続き聞ける。実は全国で、毎年500校近い廃校がある。その7割が社会福祉施設やアート等の創作場所になるなど新しい役割をもって、地域で新しく生まれ変わりつつある。学校がそこに残ることのみが、地域の活性化のための条件だということにしがみついたままでは、どうなっていくかということ私達は考えさせられる時代に生きているのだと思う。
- ・自分達の力が発揮できるよう学校の施設や遊具を直して欲しいということについては、来年の3月までには、今の登り棒は撤去する。また、サッカーゴールは買い換えるので少し待ってほしい。体育館の屋根の音がうるさくて活動に支障があるということだが、今の福山の小学校は、教室そのものが、地震への不安を抱えている状況。まずは「命の安全」を優先したいという意味で、耐震化に取り組みたいと思っている。それが進めば、次は体育館の問題に取り組んでいかなければと思う。順番に少しずつ、しかしできるだけ急いで頑張っていく。
- ・「ふるさとクリーン作戦」を引っ張ってもらい本当にありがたい。子どもに言われた以上は、大人もしっかりごみの分別をしないではいけない。分別が不十分だと散らかってしまう。また分別がしっかりしないと、イノシシのエサ場になりかねない。そういう意味では、分別についてしっかり取り組む。回収ボックスの増加については少し検討してみたい。

## <地域からのあいさつ>

今日は市長へ直接住民の意見をお話することができ、私達箕島学区の住民の思い、考え方をご理解していただいたことと思います。私達はこれからも地域のために、地域でできることは地域で、行政と協働してできることは協働して、また行政でないとできないことは行政にお願いしてという考えを基本に、明るいまちづくり・地域づくり、住んでよかったと思える地域をつくってまいりたいと思います。また、市長の今日のお話をこれからの活かし、まちづくりへ取り組んで参りたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひします。最後に2つお願ひします。1つは今日のように直接市長さんにお話する機会を、今後も設けていただきたいということ。それから、天気の日には、いつでも窓を開けられ、洗濯物を外へ干せる環境への取組をよろしくお願ひしたいと思ひます。今日は本当にありがとうございました。